総長特別研究／理事長特別研究が採択される

学部間連携・教職員連携による新たな研究プロジェクトの実践

平成24年度、本学では学内競争的資金の新たな試みとして、「総長特別研究」と「理事長特別研究」が創設されました。総長特別研究は、日本大学のもつ学問領域の幅広さを活かし、未来の地球環境、ヒトの生命、生活のために求められる、あるいは新たに提案する総合的・統合的な研究課題をテーマに募集がありました。理事長特別研究は、本学の教育研究活動及び運営に対して、直接的又は間接的に活かすことができるものを対象に募集がありました。医学部からも、総長特別研究・理事長特別研究ともに複数の申請がありました。

大学本部による審査の結果、全体では総長特別研究2件、理事長特別研究4件の採択となりました。このうち、医学部においては、総長特別研究が1件採択、理事長特別研究が1件採択、あわせて2研究プロジェクトが該当することになりました。今年度は、初回ということもあり、各プロジェクトとも8月からのスタートとなりました。現在、各プロジェクトにおいて、各学部と連携を図りながら実施しているところです。そこで、今回は採択された二つの研究プロジェクトについて、その概要を紹介いたします。

【総長特別研究（研究代表者：橋本修教授）】

本プロジェクトは、『高齢化社会におけるインフルエンザ感染および重症化対策の総合的研究』を研究テーマとして、3年間の研究期間で採択されました。実際には、毎年末の評価結果によって次年度の予算が決定されるなど、厳しい一面もあります。

インフルエンザは毎年流行し、未だに人類が克服できない感染症である。特に、近年、高齢化社会を迎え感染対策と重症化機序の解明と予防は科学的見地のみならず、医療経済上も重要な課題である。従来、インフルエンザ感染は生体の感染防御能を低下させ、細菌感染症に罹患しやすくなる事は知られていたが、細菌感染がインフルエンザ感染に与える影響については、ほとんど解明されていなかった。現在、医学部と歯学部それぞれにおいて私立大学戦略的研究基盤形成支援事業プロジェクトとして、「インフルエンザウイルスと口腔・気道細菌との相互作用の機序と呼吸器重症化の病態の解明」と「口腔感染を誘因とする難治性全身疾患発症機序の解明と疫学調査拠点形成」とが進行中である。本研究は、これらの研究成果をさらに発展させ、インフルエンザ感染とその重症化機序にインフルエンザと細菌の相互作用および宿主因子に原因を求め、この重症化機序の解明を目的とした研究である。この概略を図1に示した。また、次世代シークエンサーを用いて重症化と細菌種およびインフルエンザsubtypeの同定と解析、さらに宿主側要因の解析を行う(図2)。これらの研究は、歯学部、松戸歯学部、理工学部と複数の学部の学際的連携により本プロジェクトを遂行する。本研究により、インフルエンザ感染対策の一環としての口腔ケア、気道分泌物の管理・浄化の重要性と意義、生体因子として感染病原体と生体の応答性の特徴、などが明らかにされ、社会に貢献できる研究課題と思われる。このような学際的な研究の機会を与えていただきました事を心から感謝し研究に精進したと思います。

なお、共同研究者は以下のとおりであります。

医学部：権寧博、黒田和道、山本樹生、池田稔
歯学部：今井健一、田村宗明、神尾宜昌、川戸貴行
松戸歯学部：小方頼昌、落合（栗田）智子
理工学部：櫛泰典

文責：橋本　修（呼吸器内科学分野／教授）

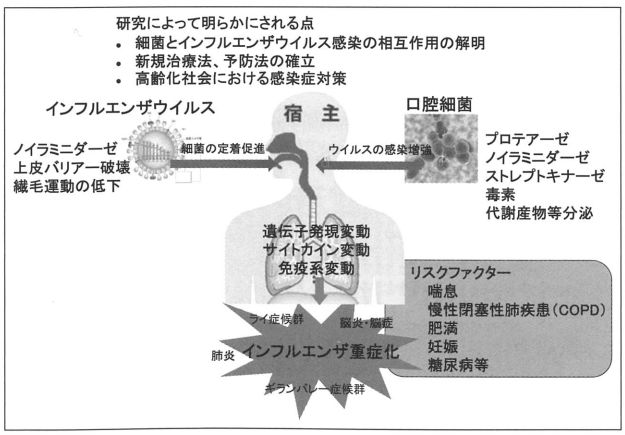


図1　ウイルス・細菌・宿主3者の相互作用

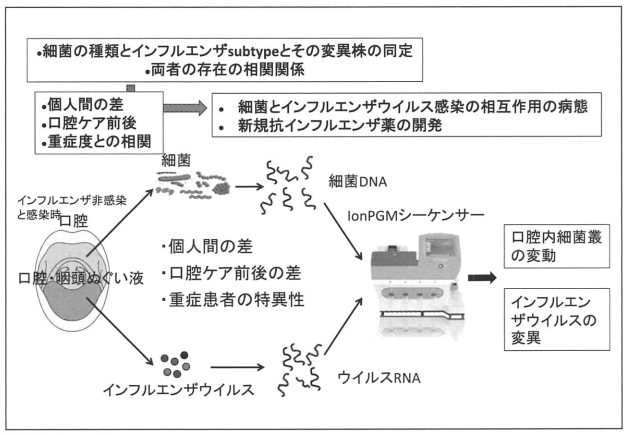


図2　口腔細菌とインフルエンザウイルスのメタゲノム解析

【理事長特別研究（研究代表者：落合豊子教授）】

理事長特別研究は、当該プロジェクトの研究成果を広く社会に還元するとともに、本学の教育研究及び運営にも積極的に活用できる研究を推進するための研究費であり、そのひとつとして、「キャリアウェイ～理系女子学生のキャリア教育と活躍促進のための環境整備に関する研究」（期間2年。初年度研究費1434万円）が採択されました。本研究プロジェクトでは、日本大学の理系9学部（医学部、歯学部、松戸歯学部、薬学部、生物資源科学部、文理学部、生産工学部、理工学部、工学部）および短期大学部3学部と、付属高等学校・中学校1校が参加しています。

■研究プロジェクトの目的

次世代の女性の理系人材育成キャリアウェイ整備として、以下の実践的研究を目的とします。

①女子中高生の理系選択支援と理系女子学生のキャリア教育、

②女子学生の就職力開発、卒業後のキャリア継続と再教育、

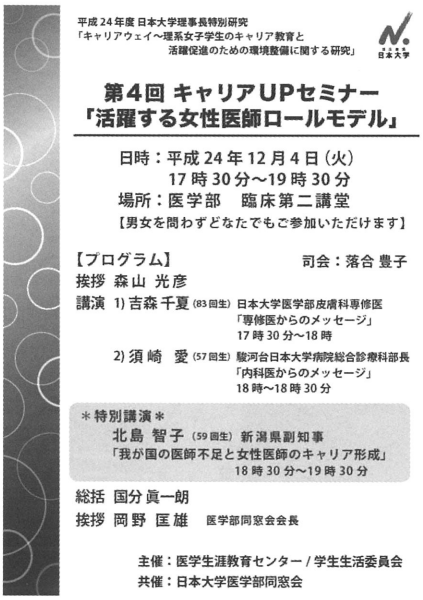
③女子大学院生・若手女性教職員の活躍促進ための環境整備等の推進

今回このプロジェクトが採択されたことは、日本大学がより良い教育研究環境を提供し、よき職業人を育成することを積極的に推進していく姿勢、大学として男女共同参画および女子学生のキャリア教育に積極的に取り組んでいく姿勢を表しています。

■研究プロジェクトの特徴

①理系女子学生へのキャリア教育とキャリアアップ支援

在学中からキャリア教育を行い、特に女性に必要なライフプランニングと職業継続、あるいは再教育・産後復帰などに対する支援を行う。また、医歯薬系学部がそろった大学として、ロールモデルを提示し専門職の職業継続やキャリアアップについても支援する体制を作る（図1）。


平成24年度 日本大学理事長特別研究
「キャリアウェイ～理系女子学生のキャリア教育と活躍促進のための環境整備に関する研究」

第4回 キャリアUPセミナー
「活躍する女性医師ロールモデル」

日時：平成24年12月4日（火）
17時30分～19時30分
場所：医学部　臨床第二講堂
【男女を問わずどなたでもご参加いただけます】

【プログラム】　司会：落合 豊子
挨拶 森山 光彦
講演 1) 吉森 千夏（83回生） 日本大学医学部皮膚科専修医
「専修医からのメッセージ」
17時30分～18時
2) 須崎 愛（57回生） 駿河台日本大学病院総合診療科部長
「内科医からのメッセージ」
18時～18時30分
＊特別講演＊
北島 智子（59回生） 新潟県副知事
「我が国の医師不足と女性医師のキャリア形成」
18時30分～19時30分
総括 国分眞一朗
挨拶 岡野 匡雄　医学部同窓会会長

主催：医学生涯教育センター / 学生生活委員会
共催：日本大学医学部同窓会

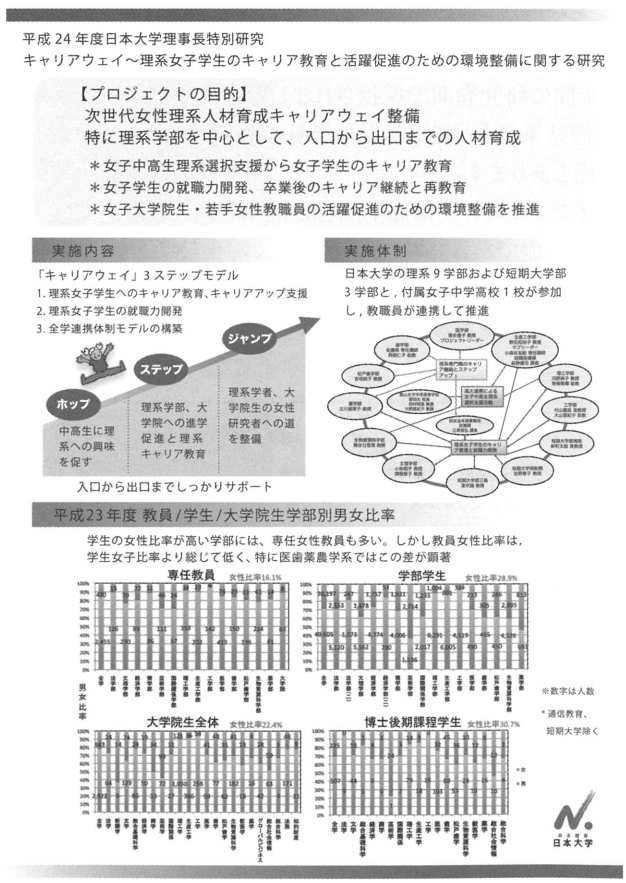
図1：第4回キャリアUPセミナー
「活躍する女性医師ロールモデル」

②理系女子学生の就職力開発

理工系学部では、校友会や企業団体と連携して、女子学生の就職力アップを図る。すなわちインターンシップや企業女性技術者との懇談により、将来の職業イメージを入学後早い段階から形成する。

③全学連携体制モデルの構築

部科校・各部署が協力し、教職員一体となって推進する体制をさらに発展させ、確立する。校友会や企業等との連携システムも作る。この体制は、今後日本大学がますます発展していくための連携体制構築モデルとして活用できる。

資源の少ない日本が、世界経済をリードしていくためには、科学技術や人材の開発と有効活用が必須です。特にイノベーション創出には、女性や外国人など多様な人材の活用が重要であると言われています。しかし、日本ではまだ女性の人材の活用が不十分であり、研究者の女性割合をみても13%程度と、先進国中最低の比率です。人材を育成し社会に貢献する大学、特に大規模私立総合大学で理系学部の多い日本大学としては、今後理系女子学生を増やし、キャリア教育をし、科学者・技術者等職業人として世に送り出していく必要があります。さらに彼女らが社会に出てからも活躍し、仕事を継続できるように、ライフプラニングや再教育・産後復帰支援を含めた環境整備が重要であると考えます。本プロジェクトの成果についてはホームページ、成果報告公開シンポジウム、ロールモデル集の作成などで逐次公表、広報する予定です。

文責：落合　豊子（皮膚科学分野／教授）